

盛岡を発掘する

—平成30年度調査速報—

【遺構】

過去の人間が地面に残した不動産的痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基礎、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

【石垣】

郭の縁辺部を取り巻く石積みの壁体として、土塁・堀と共に入城する者の動線を規制し、防衛及び視覚上の効果を期待して設置しているもの。石垣は、盛土・切り土によって、旧地形を大規模に造成した郭の表面を覆い、外壁を支える「擁壁」としての機能を付与されている。

【遺跡】

過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所、そのどれかが備わっているものを指す。盛岡市内にはおよそ七八〇ヶ所が確認されている。文化財保護法では「埋蔵文化財包蔵地」と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。

【遺物】

過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など、過去の人間が加工・製作した人工遺物と、鉱物や動植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

【遺物包含層】

土器などの遺物が含まれる土層のこと。雨などで土が流されたときに遺物が一緒に流されて堆積する場合や、不要になった土器などが捨てられて堆積する場合などがある。

【瓦】

建物の屋根を葺くための土製焼物。通常用いられる瓦は丸瓦と平瓦、軒先に並べる瓦は軒丸瓦と軒平瓦と呼ばれる。軒丸瓦・軒平瓦には瓦当という紋様などがつけられている。

【栗石】

石垣の背後に充填された石のこと。栗石の直径により、大グリ・中グリ・小グリ・割グリなどに区分出来る。大グリは直径は三〇〜四〇センチ、小グリは直径は五〜一〇センチで、用いる場所によって使い分ける。栗石は築石を安定させ、築石が背面から受ける土圧を和らげる機能を持つ。

【群集墳】

ある一定の地域にまとまった状態で古墳が作られている場所をいう。各古墳に独立性はなく、長い間に一つの墓地が自然と形成されたものと、ある一定の期間にいくつもの集落が、一定の地域に墓地を形成したものがあがる。

【須恵器】

煮て千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色の陶質の土器。古墳時代に朝鮮半島伽耶地方の技術者が渡来し生産が始まった。ロク口を利用した成形技法と焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

【石棒】

縄文時代の石器の一種。横断面が円形ないし楕円形の棒状の石製品で、両端または一端をこぶ状に作り出したものが多い。使用目的には様々な説があるが、呪術的機能を果たしていたものと推定される。

【線刻礫】

大小の川原石(礫)の表面に、細い線で様々な意匠・記号等を刻んだ、信仰・呪術等に關連するとみられる遺物。

【竪穴建物】

地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下下式の住居。夏季は涼しく、冬季は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入った後も半地下式の建物を利用していった。縄文時代には床に炉が、古代には壁にカマドが備え付けられていた。

【環】

古代のもっとも一般的な食器。碗よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

【土坑】

人が意図的に掘った穴のこと。埋葬・貯蔵・ごみ捨て・粘土採掘・掘立柱など、多様な用途が考えられている。



石棒 (大新町遺跡)



竪穴建物 (西鹿渡遺跡)

【根石】

石垣の基礎となる最下段の石材。根石の据え付けには立地や地盤の条件により、掘り込み地業や胴木設置などの技法が用いられることがある。地盤が安定している場合には、根石を据え付けるため「根切り」によって平坦面を作り、その直上に根石を設置する。地盤が軟らかい場合には、胴木を設置した上に根石を据えることもある。

【土師器】

弥生土器の流れをくむ、野焼きで約七〇〇〜八〇〇度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳や平安時代のもを指し、中世以降の同系統の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

【深鉢】

口縁部が開き、底の深い鉢形の土器。縄文土器に対して使われる用語。底部に炎による変色が見られ、内外面に煤や炭化物の付着が多いため、主に食物の煮炊用に使用されることがわかる。

【鈔鉢車】

長く繫いだ繊維に、撚りをかけて糸を作る時に使う鉢。径三〜五センチで形は円盤・球・円柱など様々。糸の太さによって、使う鈔鉢車の重さが異なってくる。

【掘立柱建物】

地面に掘った柱穴内に柱の下部を埋めて建てられた建物。柱穴そのものを掘り、柱が腐朽して残った跡を柱痕跡と呼ぶ。

【堀】

敵や動物の侵入を防ぐため、城館の周りの土を掘って溝とした施設。

【矢穴】

採石にあたって石を割る際に、あらかじめ石目に沿って直線状に複数の穴を開けておき、そこに「矢」と呼ばれる楔を打ち込んで石を割っていた。その矢を打ち込むための穴を矢穴という。



矢穴 (国史跡 盛岡城跡)

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代	年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	30年度調査遺跡									
原始	旧石器時代	12,000年前	大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡(藪川)	大新町遺跡(大新町)									
				草創期		土器の使用がはじまる								
	縄文時代	早期	8,000年前	定住化がすすむ	大新町遺跡(大新町)	大新町遺跡(大新町)								
					前期		気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現							
		後期	4,000年前	各地に大規模な縄文集落が発達	館坂遺跡(前九年) 庄ヶ畑A遺跡(上米内) 大新町遺跡(大新町) 日戸遺跡(日戸) 新茶屋遺跡(山岸) 上八木田遺跡(新庄) 畑遺跡(上米内)	大新町遺跡(大新町)								
					中期		気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる							
晩期	3,000年前	東日本で亀ヶ岡文化が栄える	【県史跡】大館町遺跡(大新町) 柿ノ木平遺跡(浅岸) 繫V遺跡(繫) 上米内遺跡(上米内) 川目C遺跡(川目) 湯沢遺跡(湯沢) 大葛遺跡(浅岸) 落合遺跡(下米内) 科内遺跡(繫) 上平遺跡(猪去)	繫V遺跡(繫)										
古代	弥生時代	紀元前 2,000年前	水田耕作の開始 金属器の使用が始まる	川目A遺跡(川目) 宇登遺跡(川又)	繫VI遺跡(繫) 一本松遺跡(下米内)									
				紀元後 57		倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る								
	古墳時代	1,700年前	239	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡(下米内) 薬師社脇遺跡(浅岸)	西鹿渡遺跡(三本柳) 細谷地遺跡(向中野) 下永林遺跡(津志田)								
					飛鳥時代		593 645	聖徳太子が摂政となる 大化の改新						
	奈良時代	1,300年前	710 724	平城京に都をうつす 多賀城が築かれる	上田蝦夷森古墳群(黒石野) 竹鼻遺跡(上鹿妻) 太田蝦夷森古墳群(上太田) 百目木遺跡(三本柳) 台太郎遺跡(向中野) 釜崎遺跡(好摩)	向中野幅遺跡(向中野)								
					平安時代		774 794 894	陸奥国38年戦争始まる(〜812年) 平安京に都をうつす 胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812) が築かれる 遣唐使が停止される						
	中世・近世	鎌倉時代	800年前	1016 1051 1083 1124 1189	藤原道長が摂政となる 前九年の戦い(〜1062年) 後三年の戦い(〜1087年) 中尊寺金色堂完成 奥州藤原氏滅亡	乙部方八丁遺跡(乙部) 林崎遺跡(下太田) 芋田遺跡(芋田) 稲荷町遺跡(大館町・稲荷町) 内村遺跡(下飯岡)	赤裳遺跡(西青山)							
						室町時代		600年前	1192 1336 1338 1404 1467	源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274) 弘安の役(1281) 南北朝に分かれ、対立する 足利尊氏が征夷大将軍となる 足利義満、明との貿易を開始する 応仁の乱	大宮遺跡(本宮) 堰根遺跡(浅岸) 台太郎遺跡(向中野) 落合遺跡(下米内) 里館遺跡(天昌寺町) 安倍館遺跡(安倍館町) 日戸館遺跡(日戸) 下田館遺跡(下田)	里館遺跡(天昌寺町)		
											安土桃山時代		1588 1590 1603 1641	南部信直が志和郡を攻略する 豊臣秀吉が天下を統一する 徳川家康が征夷大将軍となる 鎖国の体制が固まる
						江戸時代		400年前	1853 1867	アメリカの使節ペリーが浦賀に来る 大政奉還 王政復古の号令		南部家墓所(北山) 山蔭窯(茶畑)・花古窯(新庄)		
明治時代												150年前		
近代														

2019年2月2日(土)〜5月19日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

◆平成30年度調査成果報告会◆

大新町遺跡・繫V遺跡・西鹿渡遺跡・
里館遺跡・国指定史跡 盛岡城跡(予定)

■日時 2019年3月3日(日) 13:30〜15:30
■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

平成30年度 発掘調査遺跡地図



大新町遺跡 (だいしんちょういせき)

第34次調査 大新町

大新町遺跡は、全国でも数少ないつめかたもんどき爪形土器を主体とする縄文時代草創期(約10,000年前)の遺物が出土する遺跡として知られており、遺跡の西側では縄文時代中期(約5,000~4,000年前)の大規模集落である大館町遺跡と隣接しています。

今年度は、個人住宅建築に伴う本調査を実施しました。縄文時代中期のたてあな竪穴建物跡7棟、土坑12基、縄文時代早期の遺物包含層を発見しました。縄文時代中期の土坑から南東北を中心とする在地のだいき大木式土器、大木式と北東北を中心とする円筒式の折衷土器が出土し、南と北の文化の交流がうかがえます。また、石の表面に石器等の鋭器で抽象的な線や掘り込みを入れた線刻せんこく線刻が出土しました。



調査区全景

西鹿渡遺跡 (にししかどいせき) 第35次調査 三本柳

西鹿渡遺跡は、これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡、土坑、溝跡などが多数発見されており、古代の集落遺跡として知られています。

今年度は、宅地造成に伴う本調査を実施しました。調査の結果、竪穴建物跡5棟、竪穴状遺構1基、土坑4基、溝跡2条が見つかりました。また、奈良・平安時代の土師器のつぎ坏・甕が多く出土したほか、須恵器の甕、紡錘車・小玉等の土製品、砥石等の石器も見つかっています。発見された竪穴建物跡の大きさはすべて中型の規模のもので、集団の家父長層(リーダー格)の不在もしくは比較的等質な関係の集落であったと考えられます。



土器出土状況

下永林遺跡 (しもながばやしいせき) 第5次調査 津志田

下永林遺跡は、昭和10年に耕作中の畑からわらびてとう蔵手刀が出土し、昔は数基の蝦夷(エミシ)の塚があった場所と言われていいます。平成28年度の調査では、古代の有力者達を埋葬した群集墳が発見されました。

今年度は、古代の円形周溝が2基、墓壇2基、区画溝跡1条などを発見しました。

特筆すべき成果として、今回発見された区画溝跡は、地域の有力者を埋葬した墓域と集落の生活域の境界として設けられたと考えられます。また、墓壇は円形周溝を伴っておらず、これまでに発見された円形周溝とは別の性格を持つ可能性が考えられます。



円形周溝

繫V遺跡 (つなぎごいせき)

第38次調査 繫

繫遺跡は市内でも有数の縄文時代中期の集落遺跡です。昭和26年(1951)の繫小中学校増築に伴う工事の際に、縄文時代中期の底部穿孔土器7個体が発見されました。これらの土器は昭和63年(1988)に国重要文化財に指定されています。

今年度は、個人住宅建築に伴う本調査を実施しました。調査の結果、縄文時代中期の竪穴建物跡5棟、土坑3基、遺物包含層が見つかり、縄文時代中期を中心とした土器や石器のほかに、遺物包含層からは縄文時代前期~晩期までの土器や石器が出土しました。幅広い時期の土器が出土していることから、本調査区周辺でも、長期間に渡る集落があったと考えられます。



土器出土状況

里館遺跡 (さたていせき) 第64次調査 天昌寺町

今年度は、保育園建設工事に伴い本調査を実施しました。調査の結果、中世の竪穴建物跡6棟、中~近世にかけての掘立柱建物跡10棟以上、土坑9基、堀跡1条、竪穴跡3棟を発見しました。竪穴建物跡の重複が見られ、3棟以上の建物が時期を変えて造られたと考えられます。また、竪穴建物や掘立柱建物を構成していたと考えられる柱穴が約1,000口発見され、数多くの建物が存在していたと考えられます。発見された遺物は、中~近世の陶磁器、「永楽通宝」、「寛永通宝」が出土し、今回の調査で見つかった遺構・遺物は、中世の城館とその後に造られた近世の屋敷に伴うものと考えられます。



調査区全景

国指定史跡 盛岡城跡 (もりおかじょうあと) 第37・38次調査 内丸

盛岡城跡は、江戸時代の盛岡藩主南部氏の居城跡で、維新後の明治7年(1874)に建物は取り壊されましたが、往時をしのばせる雄大な石垣が残り、昭和12年(1937)に国史跡に指定されています。

今年度は、昨年度に引き続き、三ノ丸北西部の石垣解体修理に伴う調査(第37次)と台所門櫓形の史跡整備に伴う調査(第38次)を実施しました。三ノ丸北西部では、石垣の裏に詰める栗石や石垣の最上層の天端石、土塀に伴う控柱跡を確認することができました。台所門櫓形では、台所門に伴う石垣の根石や土橋跡、土塀などを発見しました。



三ノ丸北西部栗石検出状況

三ノ丸瓦門北東部石垣(国指定史跡 盛岡城跡)

北上川

岩洞湖

四十四田ダム

米内川

中津川

築川

北上川

国指定史跡 盛岡城跡

大新町遺跡

赤盤遺跡

里館遺跡

繋V遺跡

下永林遺跡

西鹿渡遺跡

御所湖

赤盤遺跡

繋V遺跡

下永林遺跡

282

4

46

46

396

106

396